

モノを動かし、ミライをつくる。



2025年6月2日

株式会社 宇徳

「水素燃料電池で稼働する荷役機械の現地稼働実証」を開始

当社は、横浜港において国土交通省が行う「水素を燃料とする荷役機械の現地実証業務」を受注し、2024年1月に国土交通省関東地方整備局と契約を締結しています。本実証は、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート（CNP）の形成を推進する一環として行われるもので、これまで現地実証に向け準備を進めてきました。

当社は、現地実証のため2023年9月に南本牧ふ頭コンテナターミナルに導入した株式会社三井E&S製ニアゼロエミッション型タイヤ式トランスファークレーン（以下、RTG）を使用し、RTGの駆動システムをディーゼルエンジン発電機から水素燃料電池パワーパックへ換装しました。本日より大陽日酸株式会社が提供する移動式水素ステーションからRTGに水素充填を実施して現地稼働実証を開始することをお知らせいたします。

「水素を燃料とする荷役機械の現地実証（横浜港）」について

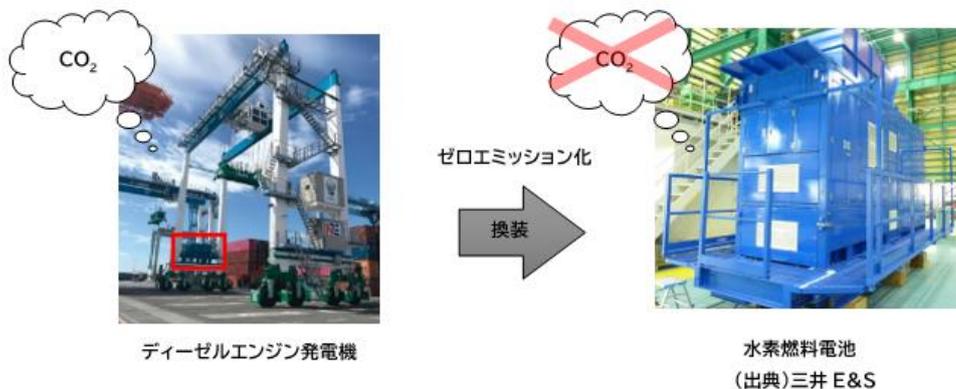
1. 実施場所

横浜港 南本牧ふ頭地区 MC-2

2. 実施内容

- 1) RTGのディーゼルエンジン発電機の水素燃料電池への換装(換装済)
- 2) RTGに対する水素充填
- 3) RTGの現地稼働実証(データ取得、分析等)

【水素燃料電池への換装】



【RTG に対する水素充填】



3. 実施スケジュール(予定)

令和7年度 : 現地稼働実証(データ取得、分析等)

令和7年度～令和8年度 : 港湾の施設の技術上の基準の改定に向けた検討等

※本実証の詳細については国土交通省報道発表資料をご確認ください。

「港湾のカーボンニュートラル化に向け、横浜港で実証開始」

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kyoku/03info/03kisya/2025/portandair0602.pdf>

世界的にカーボンニュートラルの重要性が高まっている中、当社は積極的に当該業務に関与し、実証業務を通じて将来の水素利用に備えたノウハウ、実績を蓄積し、今後もカーボンニュートラルポートを推進していくとともに、事業活動全体における環境負荷の低減に積極的に取り組んでまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社宇徳 横浜ターミナル部

ターミナルチーム TEL:045-624-5739

